

第十一回 松本城

～徳川と豊臣の間で揺れた武将の城～

周囲を北アルプス等の山々に囲まれた松本平のほぼ中央に築かれた松本城は、その黒を基調とした威容から烏城とも呼ばれています。烏城と呼ばれる城は他にもあって、例えば熊本城などが挙げられますが、これらは豊臣秀吉の大阪城を模したものとされています。これに対して白を基調にしたのが徳川家康の江戸城で、この江戸城を模したものが白鷺城と呼ばれる、例えば姫路城等の城なのです。つまり、城の外観の色から、築城主が豊臣系大名か徳川系大名のいずれかが分かるので、松本城は根っからの豊臣系大名が築城したものであるのですが、実は、松本城の築城主は、元々徳川家康の片腕とも言うべき重臣だった人なのです。

松本城を築城した武将

現在、私たちが目にして松本城の基礎を築いたのは、石川数正とその長子の康長です。父の石川数正は、徳川家康の古参の家臣で、家康が竹千代という名で今川家の人質に出されていた頃から近侍として仕えていました。彼は、桶狭間の戦いを契機に家康が今川家から独立すると、数々の武功を重ねるとともに、今川家に掛け合って人質に出されていた家康の長子信康を取り戻したり、織田信長と交渉をして同盟の成立に尽力したりと、外交々渉でその手腕を発揮しました。そうした数正を家康は重用し、長子信康の後見を託して西三河の旗頭としたのです。

その後、織田信長の死とともに豊臣秀吉が台頭すると、家康は数正に命じて得意の外交々渉にあたらせることにしました。数正は、家康と秀吉の決戦であった



松本城天守(国宝)

小牧・長久手の戦いの前から、秀吉との交渉に当たっていましたが、その小牧・長久手の戦いの後の天正13年(1585年)に、突如として家康の下から出奔して秀吉の下に走ってしまいます。出奔の理由については諸説あって、秀吉の人となり心酔したとも、徳川家中の抗戦派の讒言にあつて立場をなくしたとも、後見していた信康が切腹させられたことに不満を持っていたとも言われます。ともあれ、数正が秀吉の下に走って徳川軍の軍制が秀吉に筒抜けになったために、家康は秀吉に対抗する術を失い、天下の形勢は秀吉へと大きく傾いていくことになります。

秀吉の配下に入った数正は、天正18年(1590年)に、家康の関東移封にともなって、家康が去った後の信州松本10万石を与えられます。元は家康の重臣でありながら、家康が去った後の地に入ることに、数正の心境はさぞ複雑だったことでしょう。さらに信州松本は、家康のいる関東から意外と近い位置にあり、ある種の

緊張感を強いられたものと推測されます。おそらく秀吉は、寝返った数正を元の主に対する抑えに使ったのでしょう。数正とすれば、有事の際には徳川方から真っ先に狙われる立場なので、必死で自らの領地を守る術を考えざるを得なかったはずです。

こうして、豊臣系大名としての石川数正による松本城築城が始まることになるのです。

松本城の築城

現在の松本城の基になった城は、信濃守護の居城の周囲にあった支城の一つ、深志城です。

数正は、前城主の時代に深志城から松本城と改名されていたこの城に入り、本格的な築城を開始しました。縄張り(築城プラン)は、典型的な平城とし、四角い本丸を、北側が開いた凹型の二の丸で囲み、更に四角い三の丸で四方をすっぽり囲んで、各丸を水堀で隔てました。堀中の地面にびっしりと杭を打ち、その上に野面積みの石垣(比較的古い手法の石積み)を、緩やかな勾配でさほど高くなく積み上げています。これは、軟弱な地盤の上に石垣を積んだため、かなり基礎工事に苦心して石を積み上げていたことが分かります。

本丸の南西部にある天守構造群がいつ完成したのかは諸説ありますが、おそらく数正死後の康長の時代、慶長年間(1600年頃)と考えられます。

ちなみに、現存する5連の天守構造は康長の時代からあったわけではありません。康長時代の天守構造は、天守、乾小天守、渡櫓の3連のみで、天守の外観も今のものとは少々違っていたようです。



太鼓門(復元)



黒門(復元)

その後の石川家

数正が文禄2年(1593年)に死去した後、信州松本の地の大半は長子の康長が受け継ぎました。康長は、関ヶ原の戦いに際して一度は裏切った徳川方に付いて参戦し、結果として所領を安堵されています。しかし、慶長18年(1613年)に、大久保長安と縁戚関係にあったというだけで大久保長安事件^(※)に連座して改易され、豊後佐伯にながされてしまいます。そして寛永19年(1642年)に配所で死去し、石川家は断絶しました。おそらく事件は、取り潰しのための格好の口実にすぎなかったのでしょうか。

松本城には、その後、小笠原、戸田、松平、掘田、水野、戸田の各氏が次々と入城し、幕末を迎えることとなります。

現在の松本城

現在の松本城は、国宝に指定されている天守、乾小天守、渡櫓、辰巳附櫓、月見櫓の5棟と、本丸の石垣、内堀、二の丸の一部及び外堀の一部がきれいに残っています。この他にも、黒門と太鼓門が復元されていて、観る者の目を楽しませてくれます。

二の丸には、松本城公園や二の丸御殿跡史跡公園が整備されているので、本丸の国宝5連を見学した後は、これらの公園から、天守の外観や堀の水鳥、鯉を観て、ゆっくり過ごすのもよいでしょう。

(※)石見銀山、佐渡金山、伊豆銀山の奉行を兼ねた大久保長安の死後、その生前の不正を咎められ、大久保家の所領、財産がすべて没収され、遺児すべてが切腹を命ぜられた事件